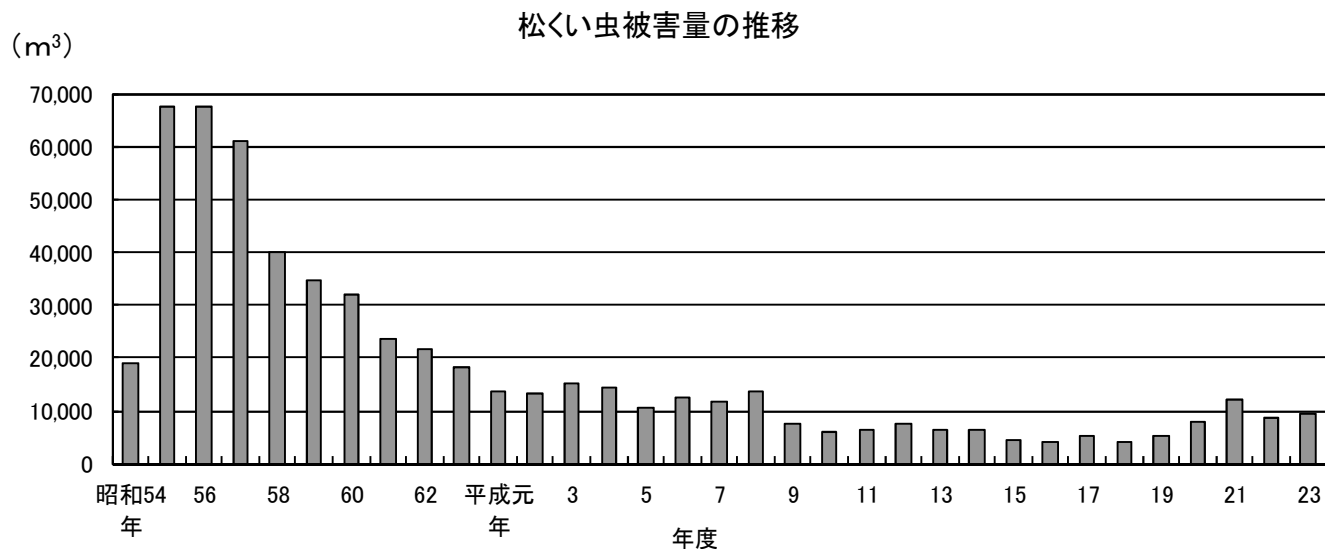


6. 森林の保護

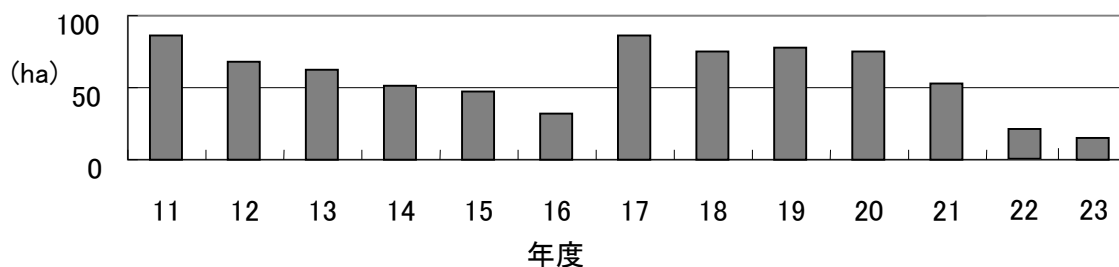
(1) 森林病虫害の防除

—松くい虫被害対策及び被害森林の再生—

「森林課資料」



サンプスギ溝腐病等被害対策の実績



(注) 平成9～16年度まではサンプスギ溝腐病総合対策事業、平成17～21年度まではサンプスギ林再生事業、平成22, 23年度は被害森林再生・資源循環促進事業

ア 松くい虫被害対策

松くい虫被害は、昭和22年に君津市で確認され、県中央部(夷隅・長生・千葉)に拡大した後、松林が集中する北総地域にまん延し、昭和56年には被害量が67千m³と最高値を示した。

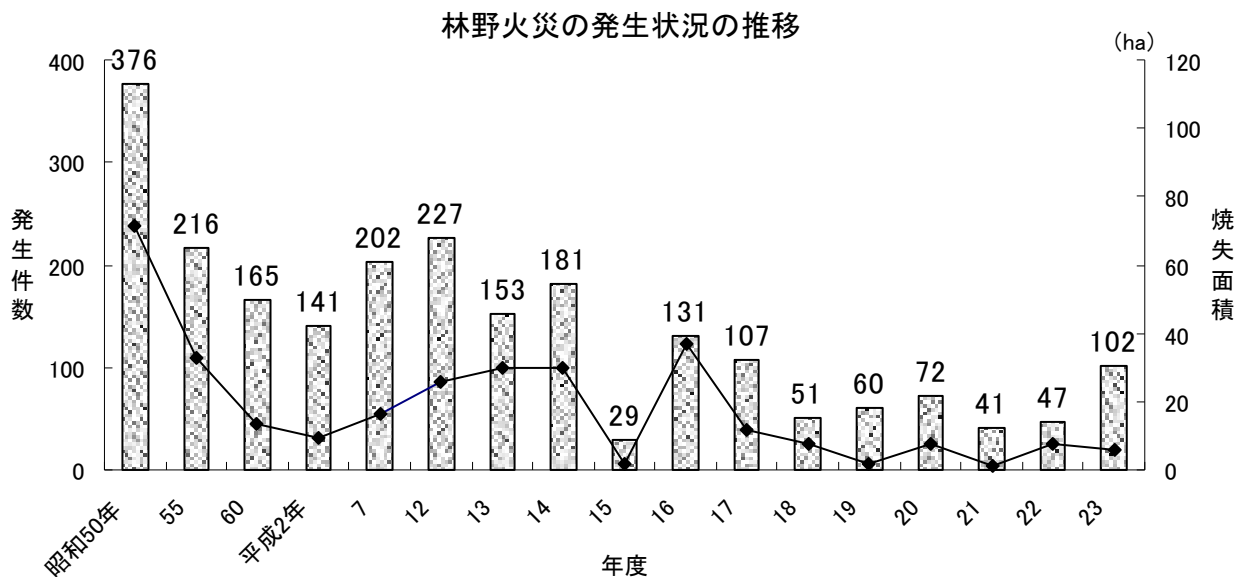
その後、薬剤散布及び被害木駆除等の各種防除対策を実施してきた結果、被害量は徐々に減少し、平成19年度までは約4～5千m³で落ち着いていた。しかし、平成20年度から九十九里海岸地域で被害量が増加し、平成21年度は約1万2千m³の被害量となった。また、平成23年度は安房地域で被害が急増し、約9千m³の被害量となった。そのため、今後は、保安林等公益的機能の高い松林を中心に生活環境や自然環境に配慮しながら従来の防除を徹底するとともに、より効果的な被害対策を検討する必要がある。また、疎林化した松林の再生のために育種事業や治山事業等と連携し総合的に対策を講じていく。

イ サンプスギ溝腐病等被害対策

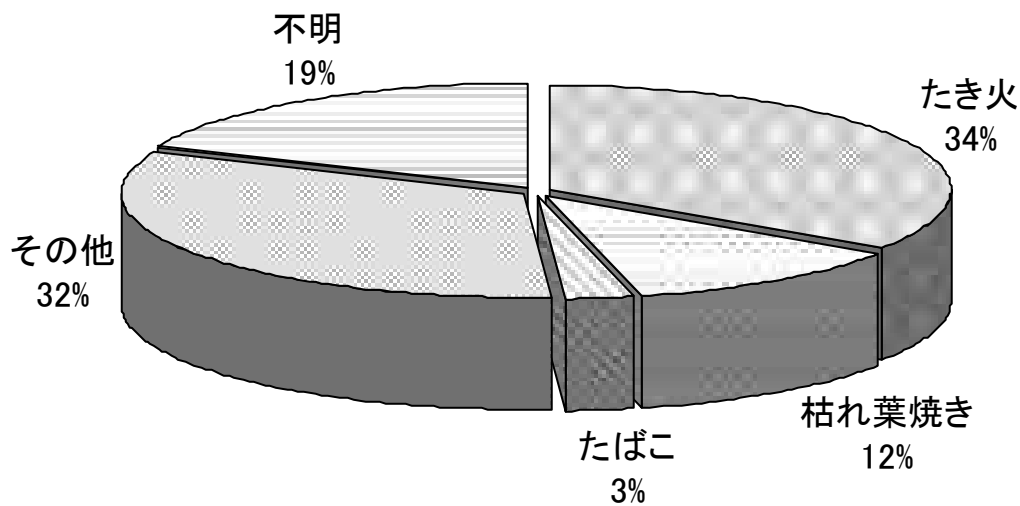
サンプスギ溝腐病を含む病虫害又は気象災害を受けた森林の再生のため、被害木等の伐倒・搬出並びに伐採跡地の植林等を計画的かつ総合的に実施し、健全で活力ある森林への再生を図った。平成23年度には、伐倒・搬出15.5ha、植林3.94haを実施した。

(2) 林野火災

―件数は増加したが、面積は減少―



平成23年次 林野火災の原因別内訳



平成23年の林野火災による焼失面積は6.07ha、出火件数は102件で、前年と比較すると出火件数は増加したが、焼失面積は減少した。

発生時期をみると、火災の発生しやすい気象条件となる1～4月に全体の約80%が集中しており、出火原因については、たき火によるものが全体の34%で最も多く、枯れ葉焼きの12%がこれに次いでいる。

平成23年度は、春期に千葉県山火事予防運動を実施し、県民に防火意識の啓発を図るとともに、森林所有者や森林組合員等へ山火事予防宣伝物品を配布し、たき火やたばこによる火災発生に対して注意を喚起した。